

## 男女共同参画に関する府民意識調査結果の概要について

## 1 調査の目的

国内外の動向や社会経済情勢の変化に応じて、男女の意識や行動がどのように変化しているかを明らかにし、今後の施策推進の参考とする。

## 2 調査の概要

- (1) 調査地域 府内全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女府民
- (3) 標本数 2,000
- (4) 標本抽出法 層化二段無作為抽出（選挙人名簿からの抽出 1,950）  
等間隔抽出（外国人登録原票からの抽出 50）
- (5) 調査方法 郵送法（再協力依頼2回）
- (6) 調査期間 平成16年9月30日～10月18日
- (7) 調査項目
- ① 男女の地位の平等について
  - ② 男女の役割分担について
  - ③ 子どもの教育について
  - ④ 介護について
  - ⑤ 職業生活について
  - ⑥ 男性の生き方について
  - ⑦ 男女共同参画の拠点施設について
  - ⑧ 女性の人権について
  - ⑨ 男女平等について
  - ⑩ 社会参画について
- (8) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター
- (9) 有効回収数 719 (36.0%)

### 3 調査結果のポイント

#### (1) 男女平等の現状認識

(報告書 P17～)

～「社会通念・慣習・しきたりなどで」最も『男性優遇』～

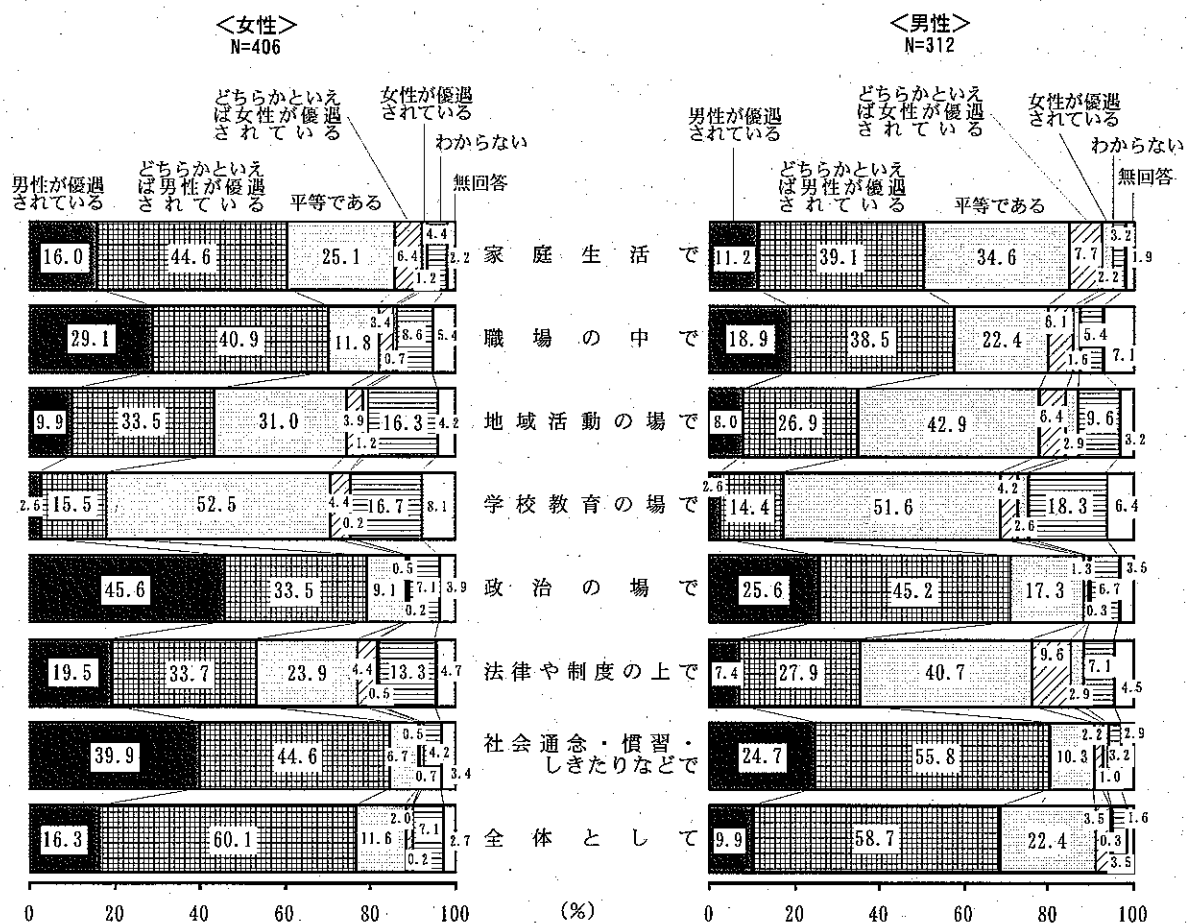
「家庭生活で」「職場の中で」「地域活動の場で」「学校教育の場で」「政治の場で」「法律や制度の上で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「全体として」の8項目について、男女の地位はどの程度平等になっているかについて、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、男女とも「社会通念・慣習・しきたりなどで」が最も高く、女性は84.5%、男性は80.5%となっている。

「法律や制度の上で」は、『男性優遇』が女性は53.2%、男性は35.3%と、男女の差が17.9ポイントと最も大きい。

「学校教育の場で」は、男女とも「平等である」が最も高く、女性は52.5%、男性は51.6%となっている。

問1. 現在の日本の社会での男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。

【図表1-1 男女平等の現状認識（性別）】



## (2) 性別役割分担意識

(報告書 P23～)

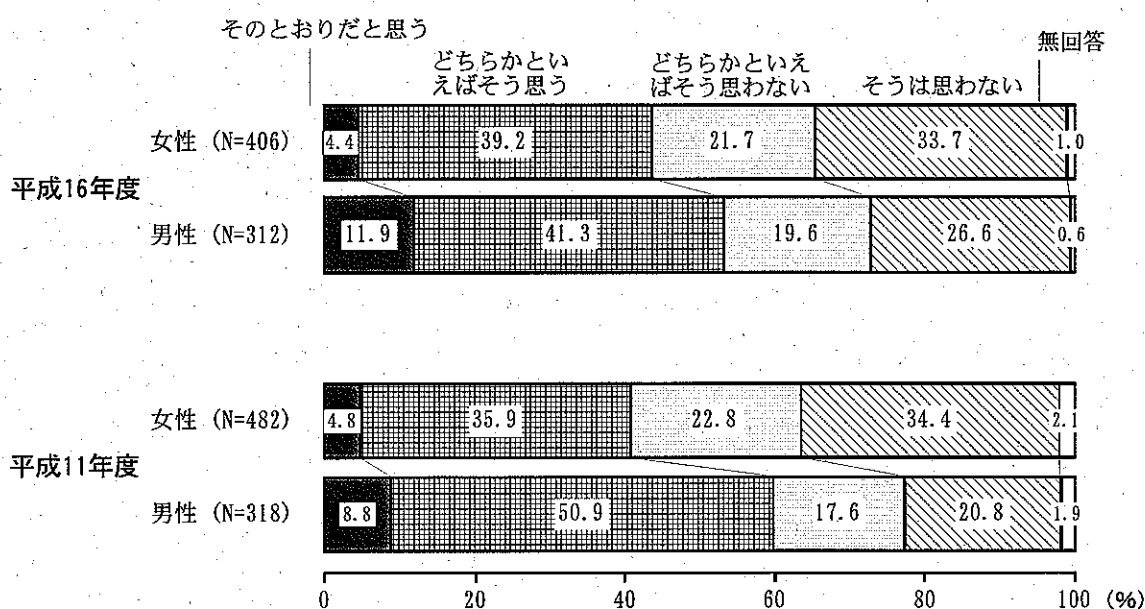
### ～男女で違う性別役割分担意識～

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、女性は、「そうは思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『同感しない』が55.4%、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『同感する』が43.6%となっている。一方、男性は、『同感しない』が46.2%、『同感する』が53.2%となっている。

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

(○は1つだけ)

【図表2-1 性別役割分担意識(性別)】



## (3) 好ましい女性の生き方と実際の女性の生き方

(報告書 P25～)

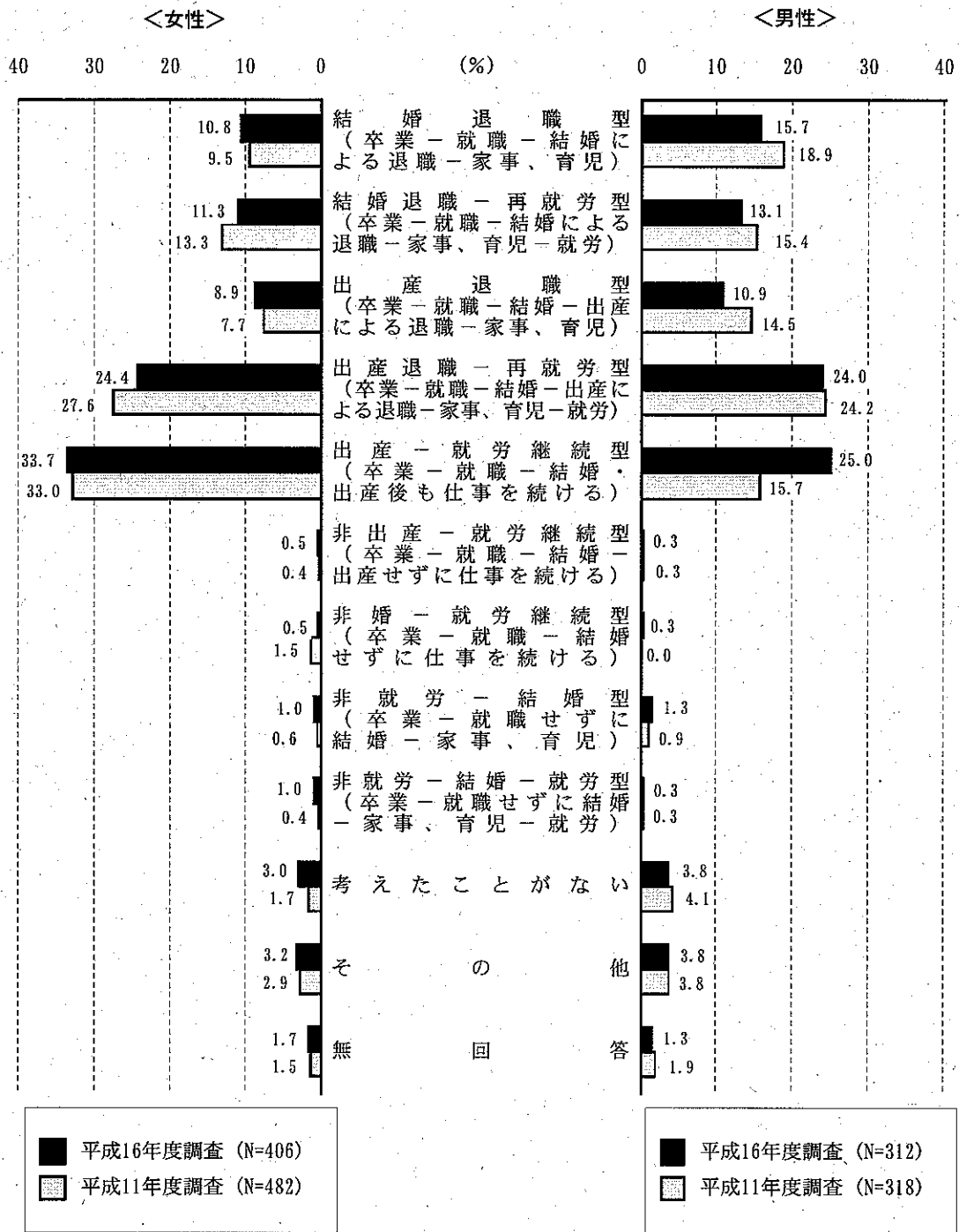
### ～『出産－就労継続型』が好ましいが、実際は『出産退職－再就労型』の女性が多い～

#### ◆ 好ましい女性の生き方

好ましいと思う女性の生き方については、男女ともに「卒業－就職－結婚・出産後も仕事を続ける」『出産－就労継続型』(女性33.7%、男性25.0%)が最も高く、次いで、「卒業－就職－結婚－出産による退職－家事、育児－就労」という『出産退職－再就労型』(女性24.4%、男性24.0%)となっている。

問3. あなたが好ましいと思う女性の生き方は、どのような生き方だと思いますか。  
 (つぎのうちから○は1つだけ)

【図表2-2 好ましい女性の生き方(性別)】



◆ 実際の女性の生き方

実際の女性の生き方は、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持った（持つつもり）」が27.4%と最も高く、次いで、「結婚するまでは仕事を持っていた（持つつもり）」が22.5%、「結婚・出産にかかわりなく、ずっと仕事を持っている（持つつもり）」が21.7%となっている。

問3-1. **女性の方に対して**

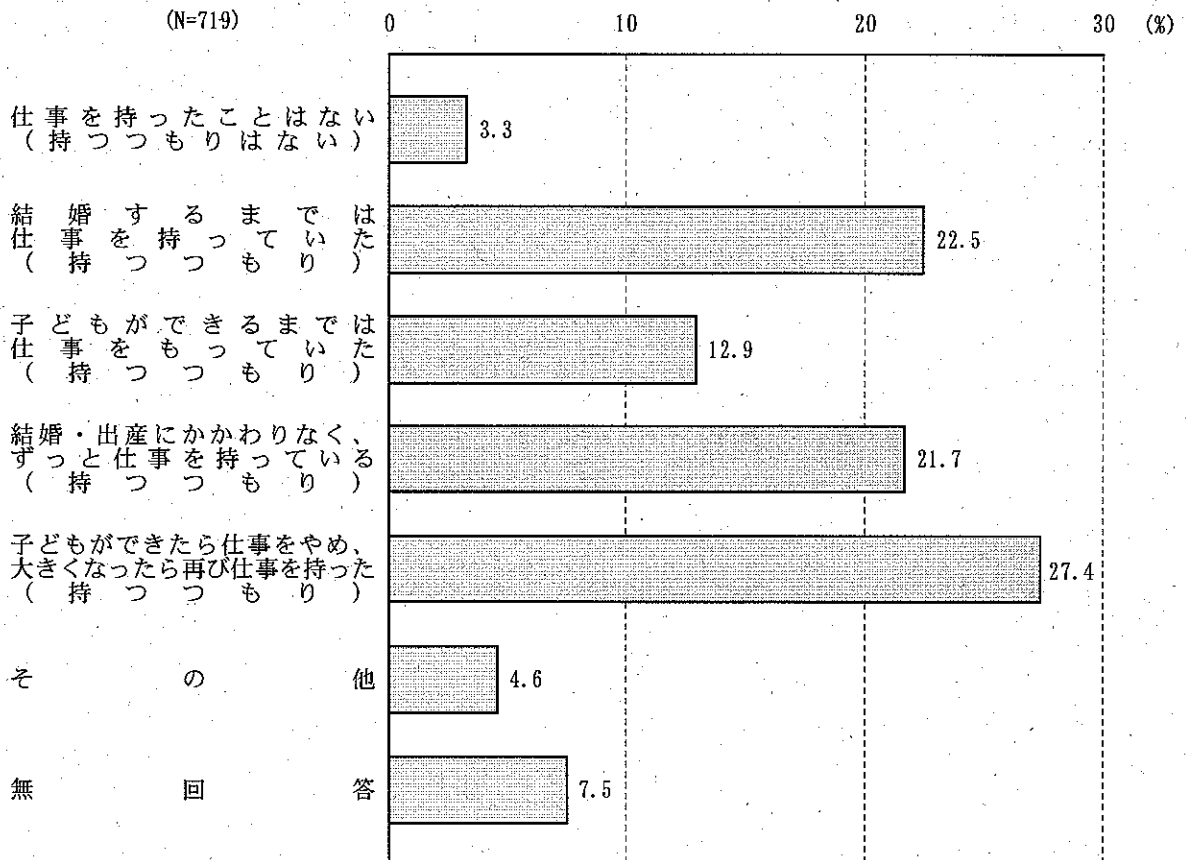
あなたの場合、実際には、どれにあてはまりますか。又は、どのようにされるつもりですか。（○は1つだけ）

**男性の方に対して**

あなたの配偶者の場合、実際には、どれにあてはまりますか。

又は、配偶者はどのようにされると思いますか。（○は1つだけ）

【図表2-3 実際の女性の生き方】



#### (4) 子育てへのかかわりの程度

(報告書 P46～)

～男女で大きく違う子育てへのかかわり～

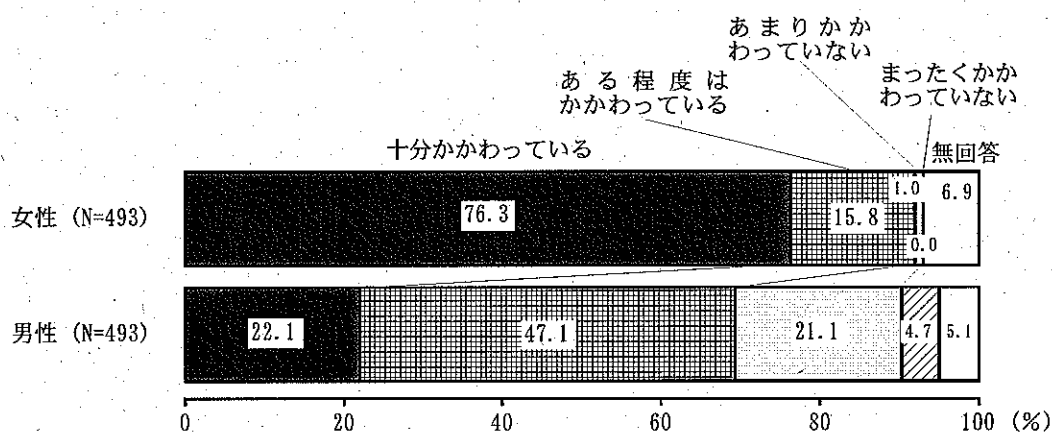
子育てに「十分かかわっている」女性は76.3%、男性は22.1%となっている。

一方、「あまりかかわっていない」「まったくかかわっていない」を合わせた『かかわっていない』は、女性が1.0%に対し、男性は25.8%となっている。

問6. あなたと配偶者の子育ての関わりは十分だ(十分だった)と思いますか。

(○は1つだけ)

【図表2-6 子育てへのかかわりの程度(性別)】



※女性は、女性・回答者と男性・配偶者を合わせた値  
男性は、男性・回答者と女性・配偶者を合わせた値

#### ◆ 子育てへのかかわりが十分でない理由

男女ともに、「仕事の時間が長すぎる」(女性60.0%、男性54.3%)が最も高く、次いで、「子育ては女性が適していると考えている」(女性40.0%、男性32.3%)となっている。

(5) 子どもに受けさせたい教育程度

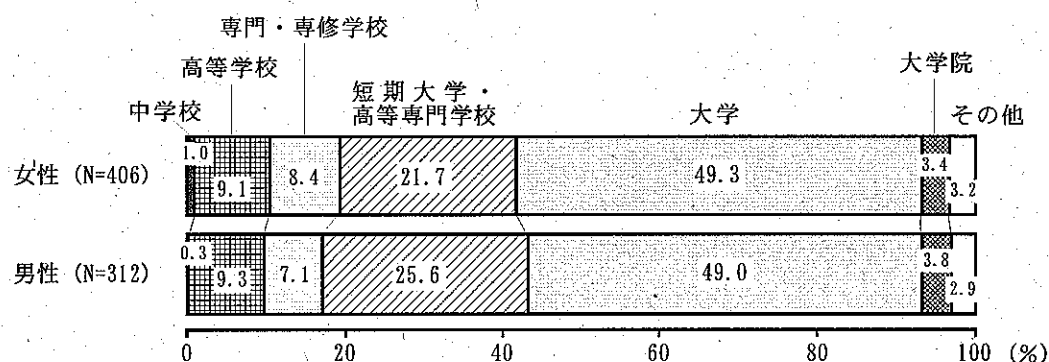
(報告書 P50～)

男の子の場合、男女ともに、圧倒的に「大学」(女性68.2%、男性71.8%)が高く、「大学院」も含めると約8割となっている。女の子の場合、男女ともに「大学」(女性49.3%、男性49.0%)が最も高いが過半数に及ばない。

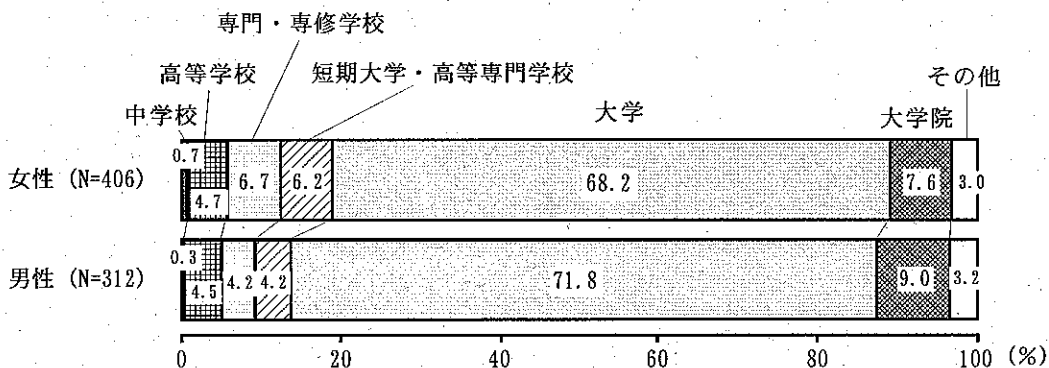
問7. あなたに子どもがいるとした場合、受けさせたい教育程度について、女の子、男の子それぞれどうお考えですか。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

【図表3-1 子どもに受けさせたい教育程度(性別)】

(1) 女の子の場合



(2) 男の子の場合



◆ 前回調査との比較

平成11年度と比較すると、「大学・大学院」まで受けさせたいと望む割合が、女の子の場合(女性10.2ポイント、男性16.0ポイント)、男の子の場合(女性2.6ポイント、男性10.0ポイント)ともに上昇している。

(6) 子どもに望む生き方

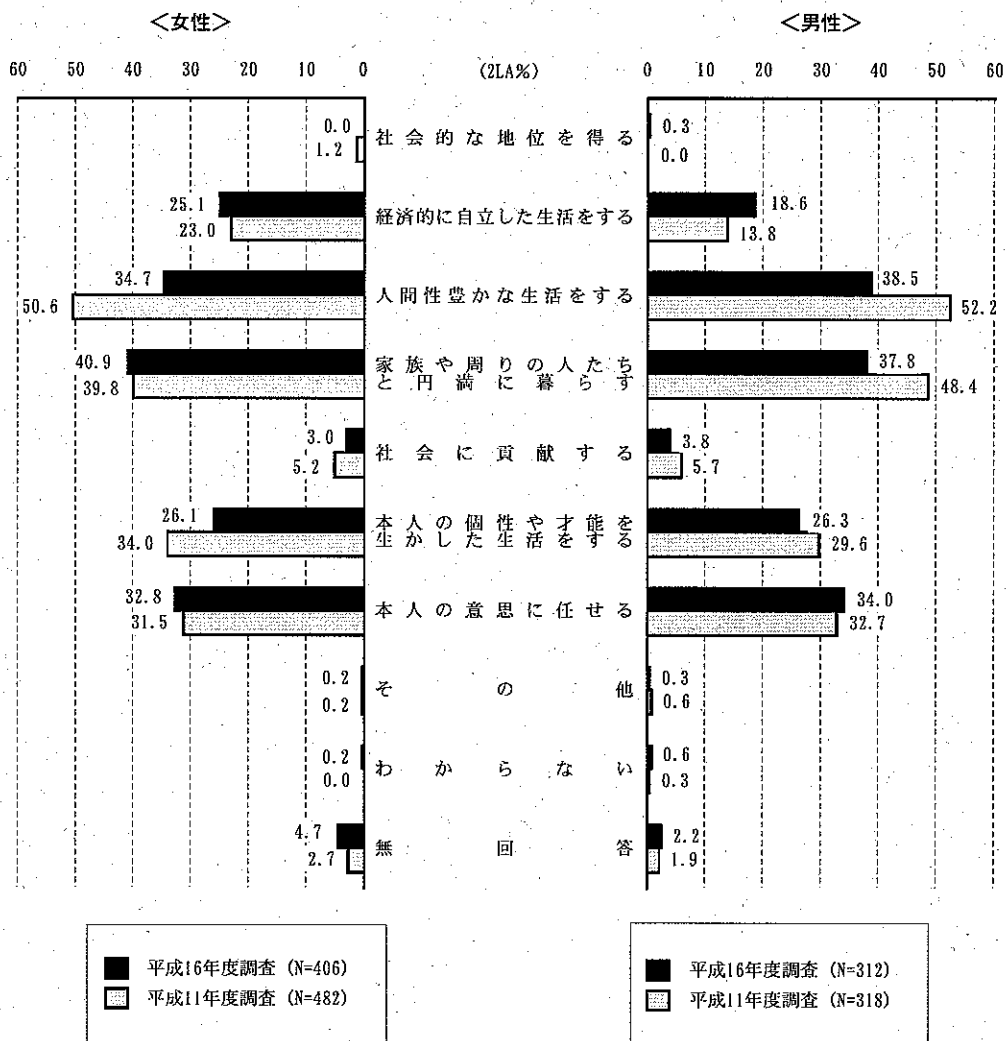
(報告書 P54~)

女の子の場合は「家族や周りの人たちと円満に暮らす」(女性40.9%、男性37.8%)や「人間性豊かな生活をする」(女性34.7%、男性38.5%)が、男の子の場合は「経済的に自立した生活をする」(女性54.2%、男性46.5%)や「本人の意思に任せる」(女性27.8%、男性31.1%)が高くなっている。

問8. あなたは、自分の子どもには将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。(○はそれぞれ2つずつ)

【図表3-2(1) 子どもに望む生き方：女の子の場合(性別)】

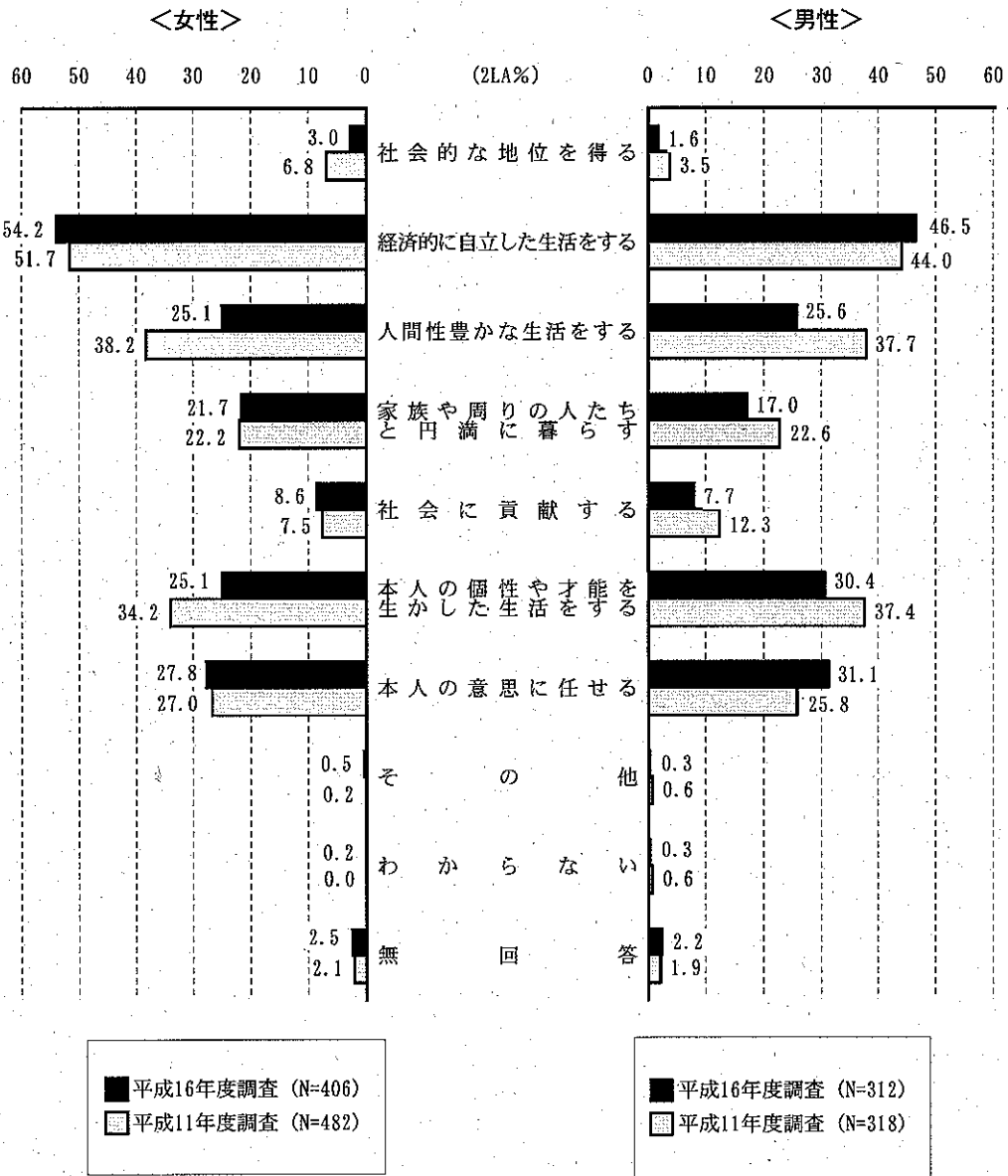
(1) 女の子の場合





【図表3-2(2) 子どもに望む生き方：男の子の場合(性別)】

(2) 男の子の場合



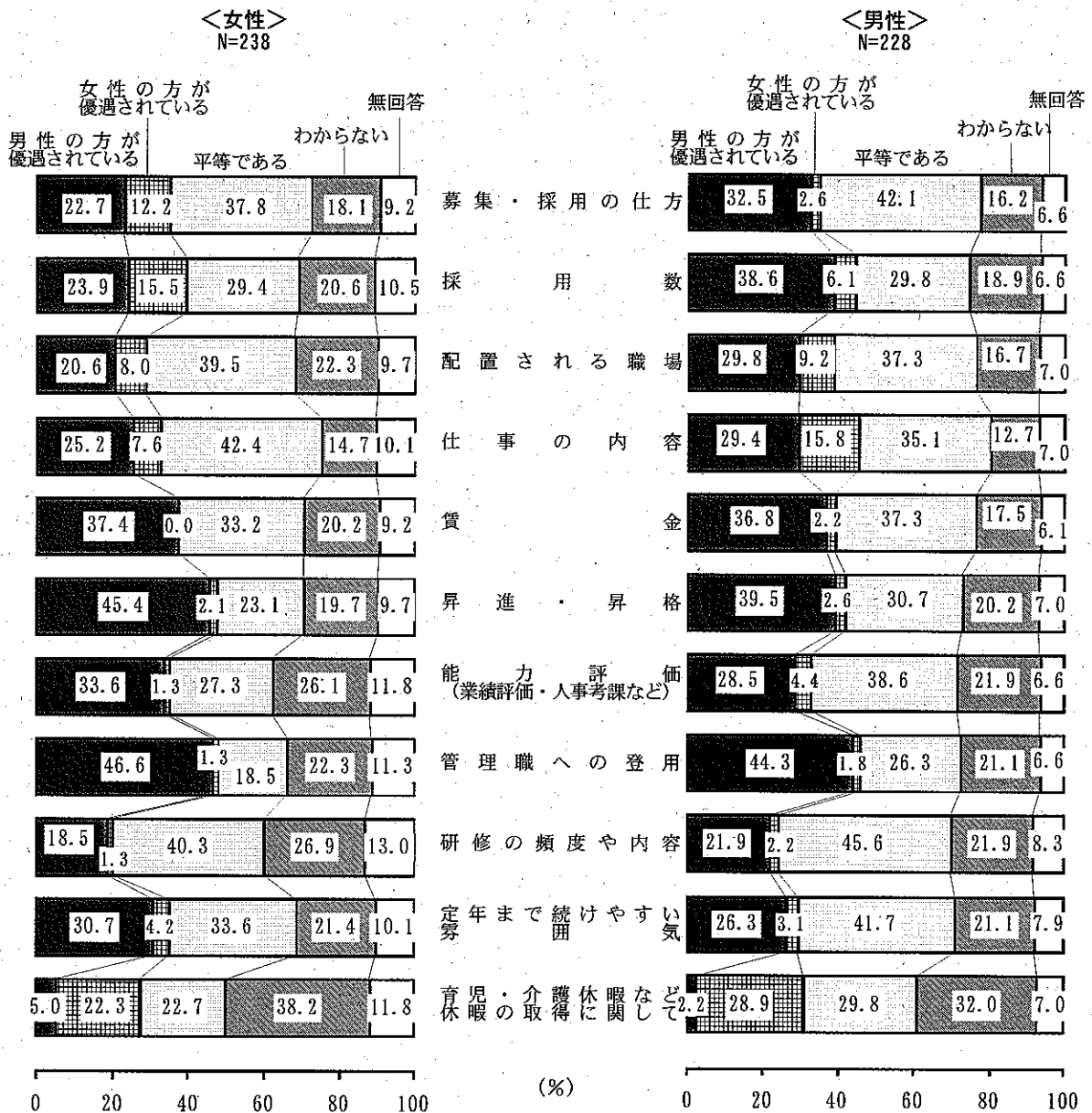
(7) 職場において男女格差を感じること

(報告書 P67～)

「男性の方が優遇されている」では、男女とも〈管理職への登用〉(女性46.6%、男性44.3%)が最も高く、次いで〈昇進・昇格〉(女性39.5%、男性39.5%)となっている。「女性の方が優遇されている」では、〈育児・介護休暇など休暇の取得に関して〉(女性22.3%、男性28.9%)が2割強となっている。

問 13. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

【図表5-2 職場において男女格差を感じること(性別)】



(8) 女性が働き続けるために必要なこと

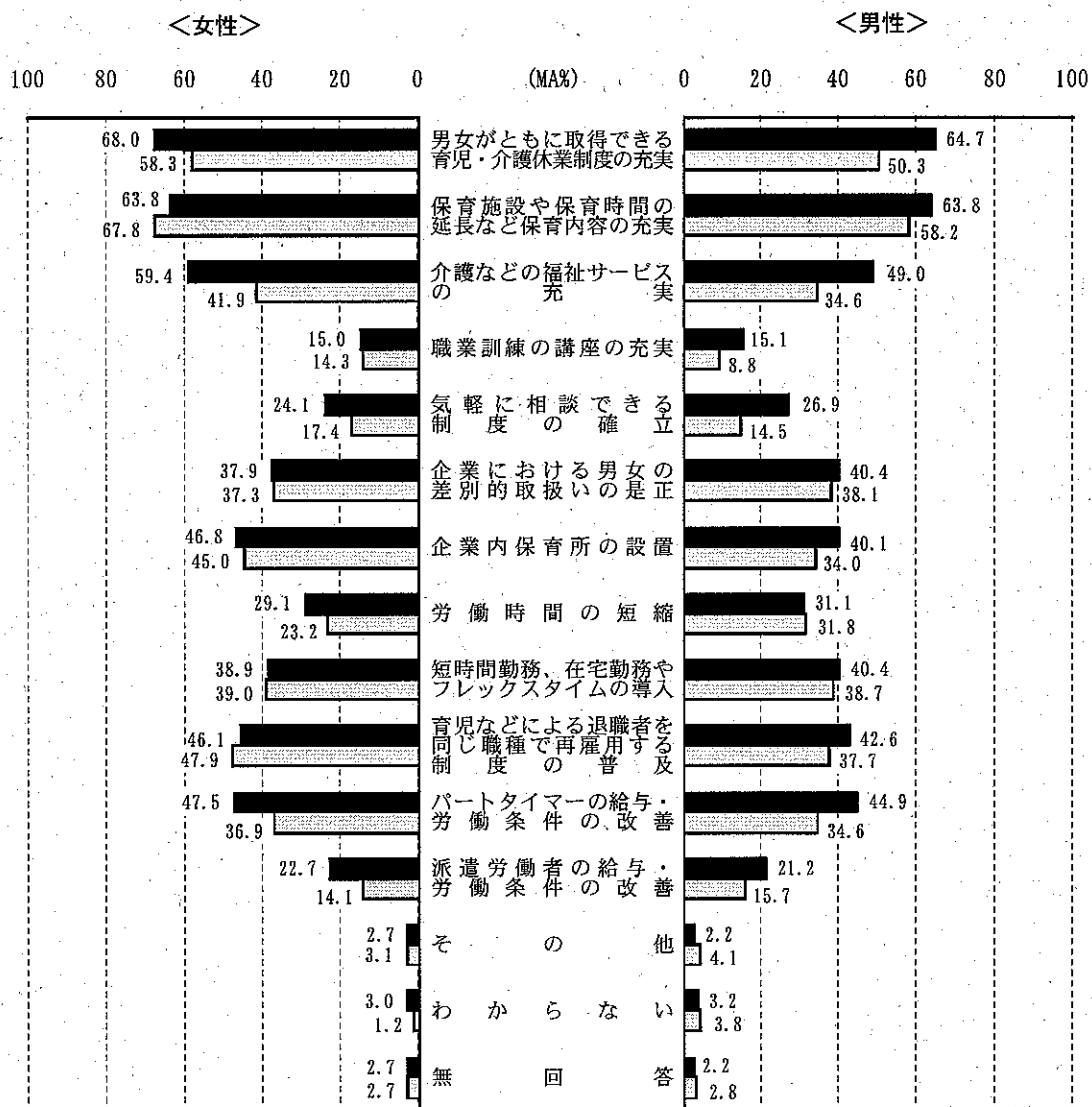
(報告書 P84~)

「男女がともに取得できる育児・介護休業制度の充実」(女性68.0%、男性64.7%)  
 や、「保育施設や保育時間の延長など保育内容の充実」(男女とも63.8%)が男女ともに  
 高くなっている。

問 16. 女性が働き続けるために、今後、どのようなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

【図表5-5 女性が働き続けるために必要なこと(性別)】



■ 平成16年度調査 (N=406)  
 ▨ 平成11年度調査 (N=482)

■ 平成16年度調査 (N=312)  
 ▨ 平成11年度調査 (N=318)

(9) 望ましい男性の生き方と実際の男性の生き方

(報告書 P88～)

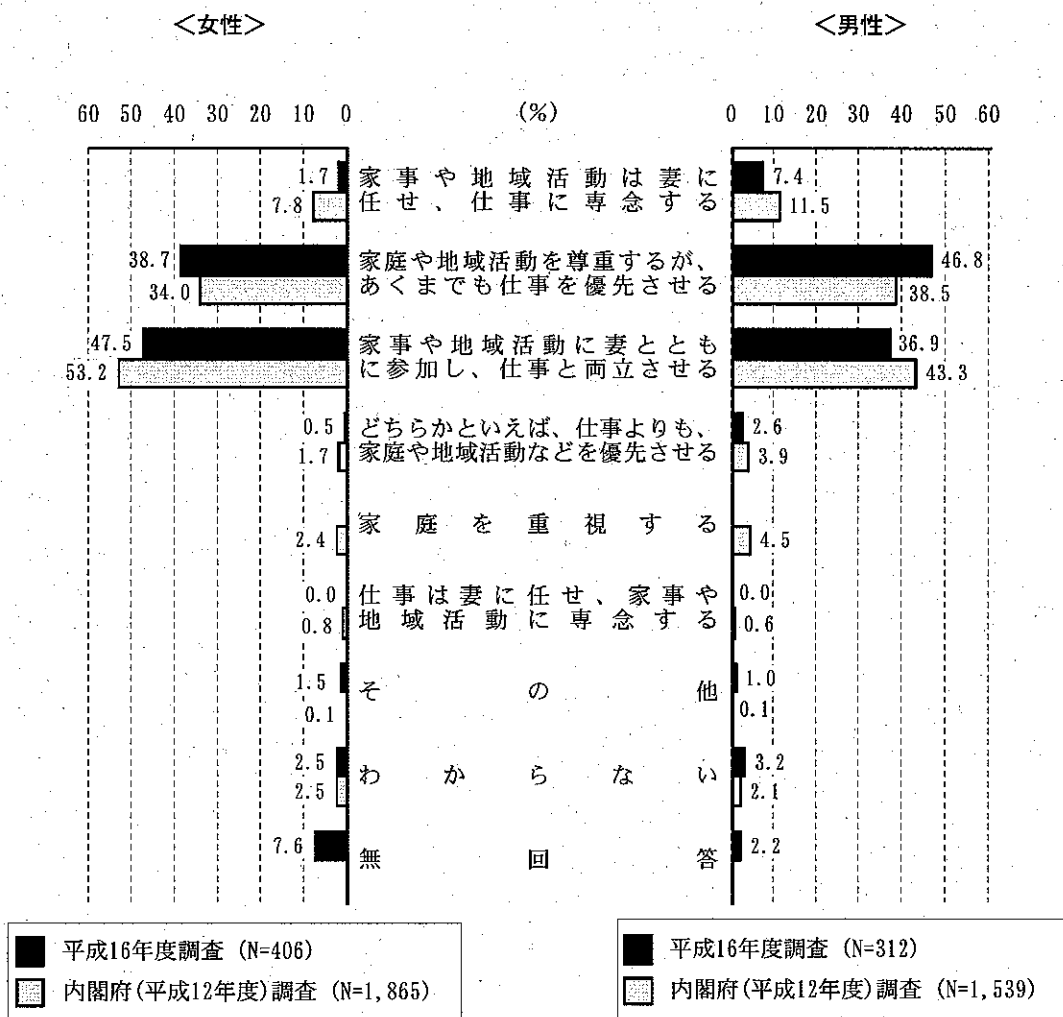
～女性は『家事等と仕事との両立』を、男性は『仕事優先』を望ましいと思っており、実際は『仕事優先』の男性が多い～

◆ 望ましい男性の生き方

望ましい男性の生き方については、女性は「家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる」(47.5%)が、男性は「家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる」(46.8%)が最も高い。

問 18. 仕事と家庭や地域活動についての男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方だと思いますか。(○は1つだけ)

【図表 6-1 望ましい男性の生き方 (性別)】



※「家庭を重視する」の項目は、平成16年度の調査の質問内容に含まれておらず、「無回答」の項目は、平成12年度調査(内閣府)のデータにはない。

◆ 実際の男性の生き方

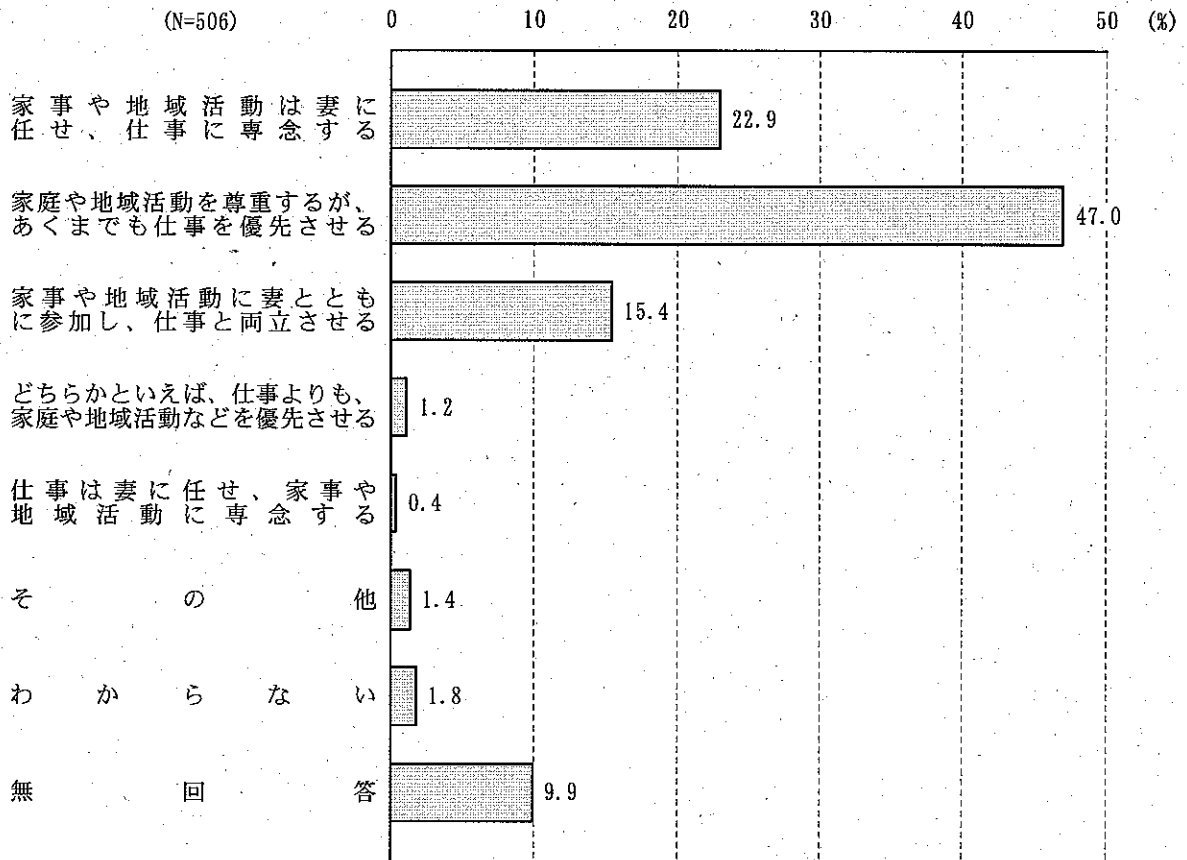
実際の男性の生き方は、「家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる」が47.0%と最も高く、次いで、「家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する」(22.9%)、「家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる」(15.4%)となっている。

問 18-1.

女性の方に対して あなたの場合、実際には、どれにあてはまりますか。  
(○は1つだけ)

男性の方に対して あなたの配偶者の場合、実際には、どれにあてはまりますか。  
(○は1つだけ)

【図表6-2 実際の男性の生き方】



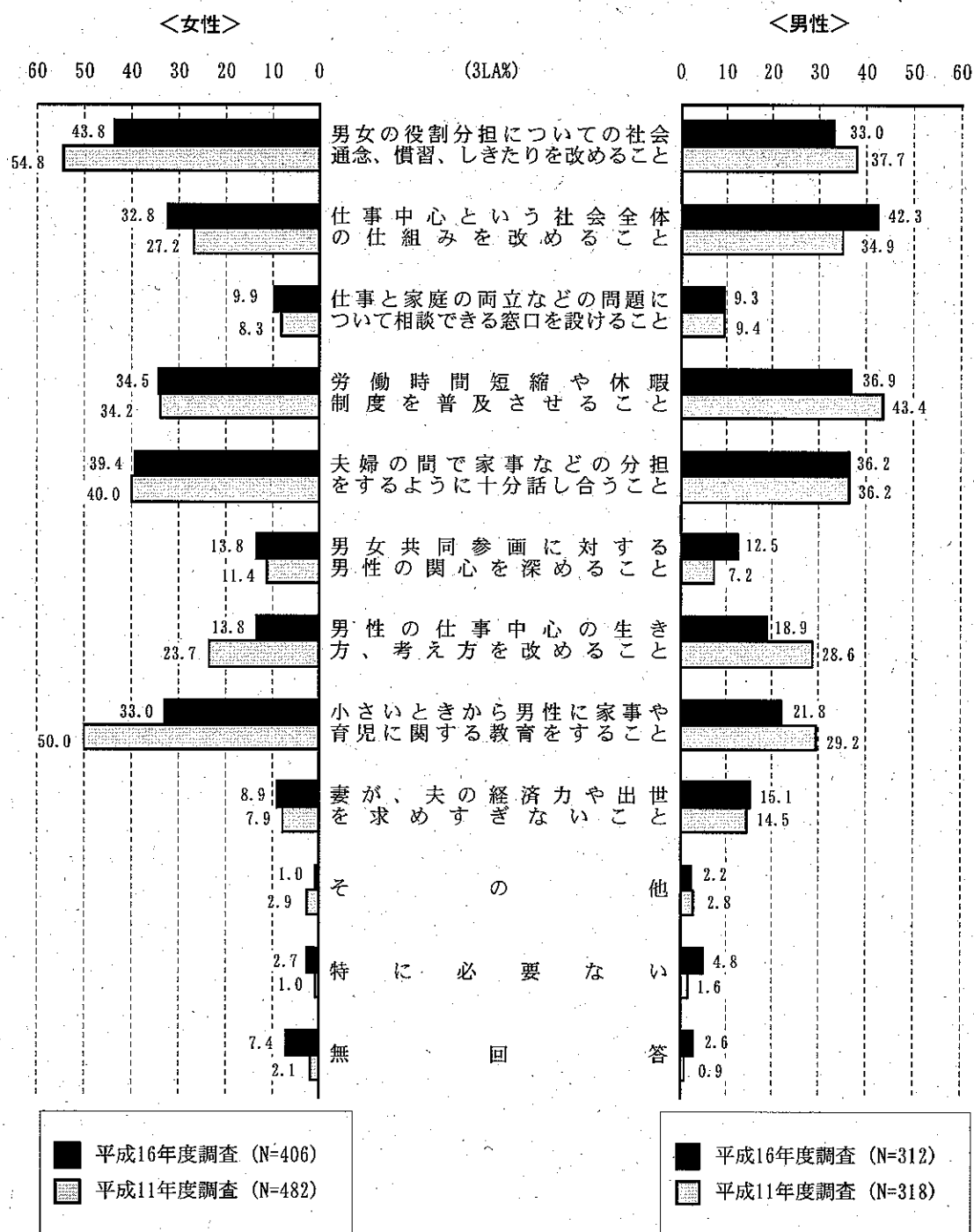
(10) 男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

(報告書 P91～)

女性は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(43.8%)が、男性は「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(42.3%)が最も高くなっている。

問 19. 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

【図表 6-3 男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要なこと (性別)】



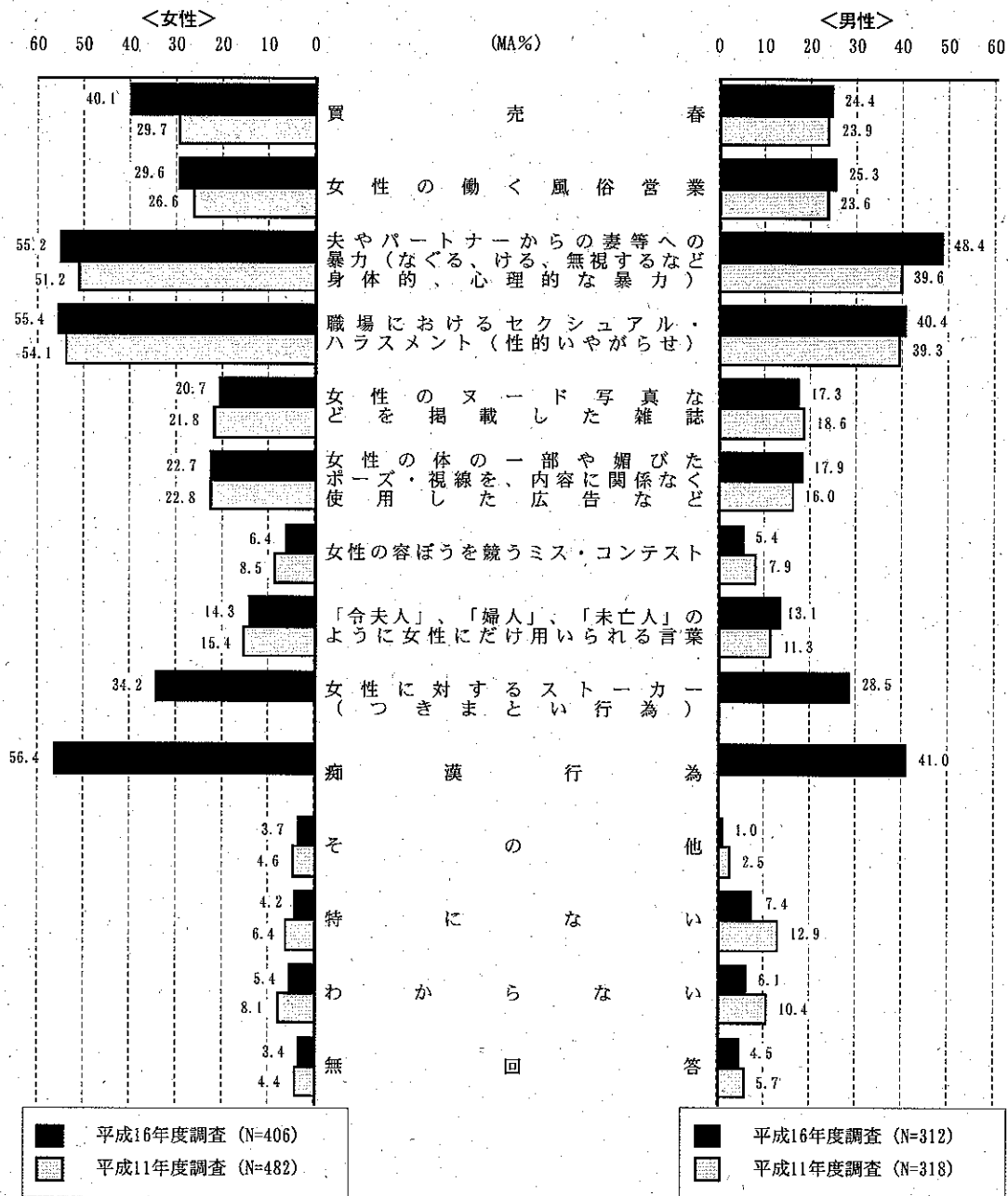
(11) 女性の人権が尊重されていないと感じること

(報告書 P97～)

女性は「痴漢行為」(56.4%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(55.4%)、「夫やパートナーからの妻等への暴力」(55.2%)の順となっており、男性は「夫やパートナーからの妻等への暴力」(48.4%)、「痴漢行為」(41.0%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(40.4%)の順となっている。

問 22. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(○はいくつでも)

【図表 8-1 女性の人権が尊重されていないと感じること (性別)】



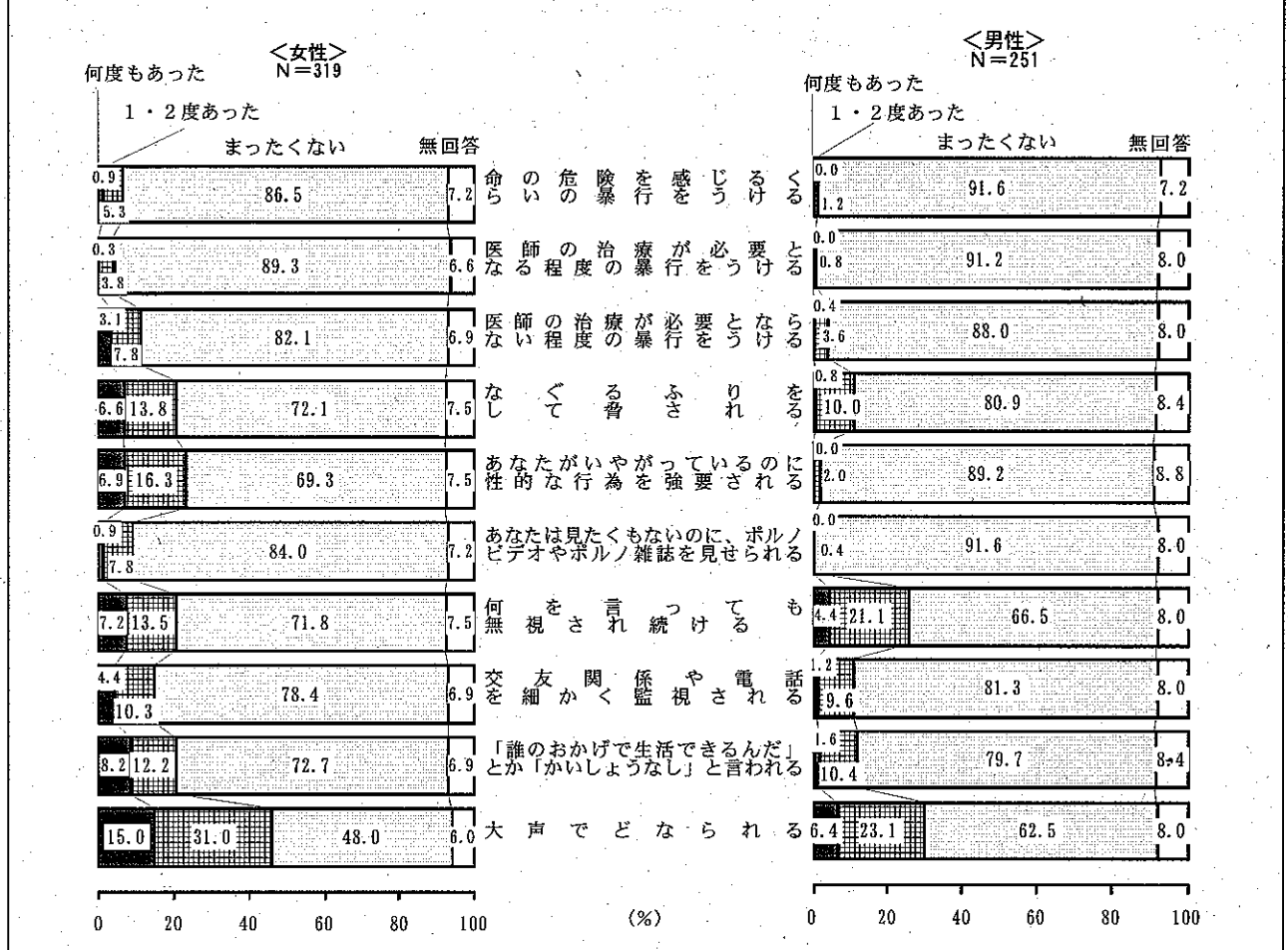
※ 「女性に対するストーカー (つきまとい行為)」、「痴漢行為」の2項目は、平成11年度調査に含まれていない。

(12) ドメスティック・バイオレンス (DV) を受けた経験 (報告書 P99～)

DVを経験した人の割合(「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた数値)が最も高かったのは、男女ともに「大声でどなられる」で、女性は46.0%、男性は29.5%となっている。また、女性の6.2%、男性の1.2%が、「命の危険を感じるくらい」の暴行を受け」た経験があるとしている。

問 24. あなたは、これまでに配偶者(事実婚・別居中を含む)から、次のようなことをされたことがありますか。

【図表 8-3 DVを受けた経験(性別)】





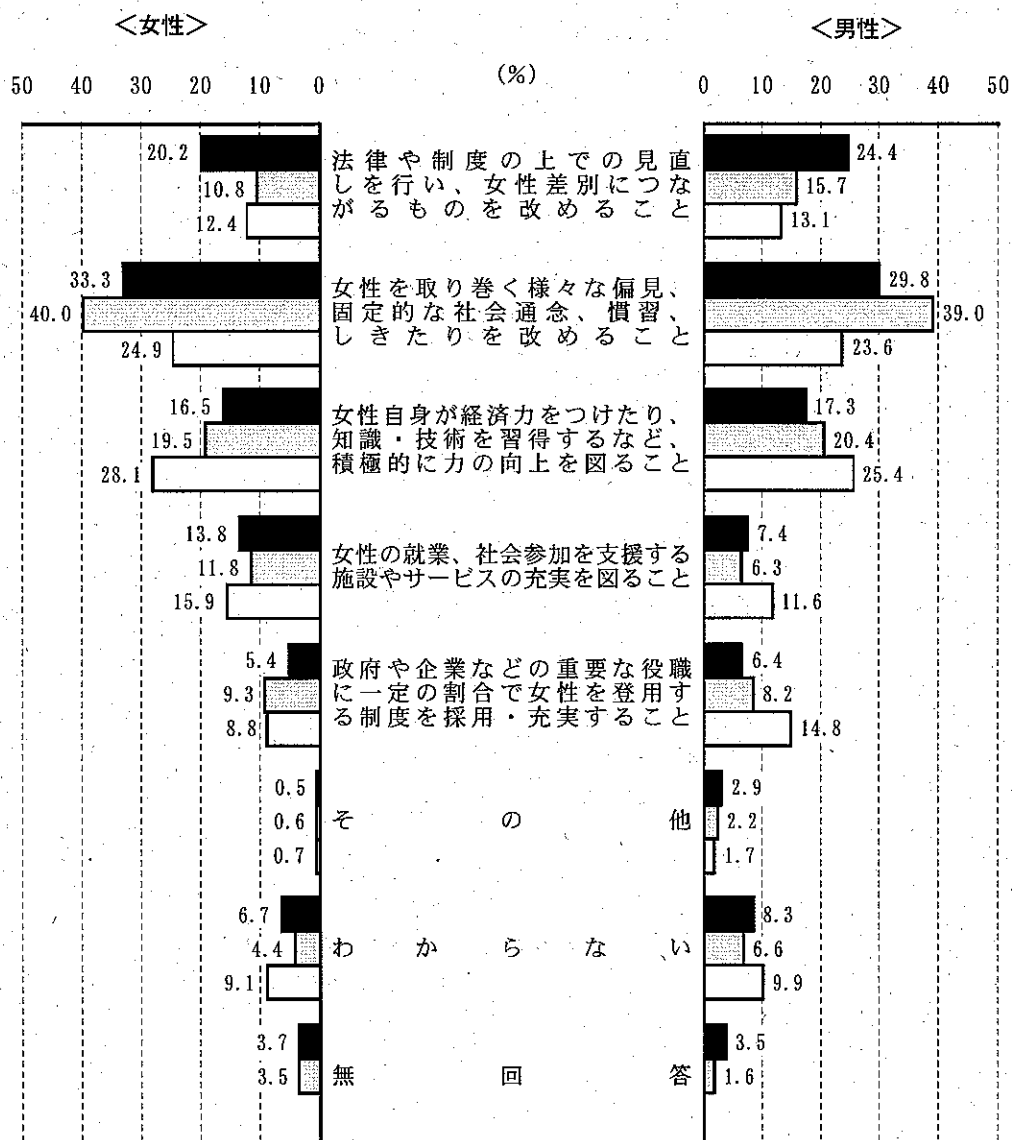
(13) 男女平等の実現にとって最も重要なこと

(報告書 P118～)

男女ともに「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(女性33.3%、男性29.8%)が最も高く、次いで、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」(女性20.2%、男性24.4%)となっている。

問 29. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(○は1つだけ)

【図表9-1 男女平等の実現にとって最も重要なこと(性別)】



■ 平成16年度調査 (N=406)  
 ■ 平成11年度調査 (N=620)  
 □ 内閣府(平成14年度)調査 (N=1,937)

■ 平成16年度調査 (N=312)  
 ■ 平成11年度調査 (N=451)  
 □ 内閣府(平成14年度)調査 (N=1,624)